

## 大鹿村中央構造線博物館たより 82号



月・火曜日休館

TEL&amp;FAX: (0265) 39-2205 E-mail: mtl-muse@osk.janis.or.jp

## 講演会「ユネスコエコパークってなんだろう？」を開催しました

3月5日(土)、博物館にてユネスコエコパークについての講演会を開催しました。講師は山梨県南アルプス市ユネスコエコパーク推進室の専門員、若松 伸彦さんです。

2014年6月12日、南アルプスがユネスコエコパーク(生物圏保存地域)に登録されました。大鹿村は全村が指定地域に含まれています。ユネスコエコパークとしての面積は国内最大で、長野県、静岡県、山梨県の3県10市町村からなります。

ユネスコエコパークは基本的には自然保護の制度で、ユネスコ人間と生物圏(MAB: Man and the Biosphere)計画における一事業として実施されています。ユネスコ(国際連合教育科学文化機関)は教育、科学、文化の発展を通じ、国際平和と福祉の促進を目的とした国際連合の専門機関です。

ユネスコエコパークとは日本でのみ通用する愛称で、正式には「Biosphere Reserve」、日本語では「生物圏保存地域」と訳されます。「ユネスコ」と付けることが重要で、インターネットで「エコパーク」のみで検索すると、公園やリサイクルショップなども出てきます。

ユネスコエコパークには「保存機能(生態系の保全)」、「学術的研究支援」、「経済と社会の発展」という3つの機能があり、相互に強化する関係です。これらの機能を果たすため、役割の異なる3つの地域で構成されています。最も重要な「核心地域」は多くの動植物が生育しており、厳しく保護されます。「緩衝地域」は核心地域の周囲や隣接する地域で、自然(核心地域)と人間社会との緩衝剤としての役割を果たします。教育や研修、レジャーなど、自然の保全や持続可能な利用への理解を進め、将来の担い手の育成等が行われます。「移行地域」は人々が生活している地域で、自然環境と調和した社会の実現に向けた取組みが行われています。また、手付かずの自然を保護するだけでなく、里山など人が手を加えることで維持される自然も重要です。

ただ、ユネスコエコパークになったからといって、急に何かが変わるわけではありません。管理は登録前から存在する法律等によるため、今までできていたことができなくなることはありません。また、観光客が急増するわけでもありません。

ユネスコエコパークは自然と人間社会の調整の役目を果たします。その地域にどんな動植物が生息しているか把握し、継続的に調査を行うことが大切です。

ユネスコエコパークは地域の住民が主役、南アルプスでは大鹿のみんなも主役です。身近な自然や文化に興味を持ち、それらの価値を知り、地域に誇りを持ちましょう。(榎原)



大鹿村の南アルプスユネスコエコパークにおける土地利用区分

## 大鹿の大地をちょっと見る観察会

### 「大河原の平地はどのようにしてできたか」を開催しました

3月12日（土）、大鹿の大地をちょっと見る観察会「大河原の平地はどのようにしてできたか」を開催しました。大鹿村内と伊那市、飯田市から、合わせて8名の方が参加してくださいました。

最初に、博物館で堆積について2つの実験を行いました。初めに、透明な容器に水と砂や泥を入れたものをよく振った後、静かに置き、砂や泥が沈殿していく様子を観察しました。結果、大きめのれきや砂から沈み、細かい泥はその上に積まりました。

2つめは海や湖などにおける堆積を再現した実験で、傾けた雨樋に河原の砂や泥をのせ、上から水を流して土砂を水そうにためていき、何回か繰り返すことで地層ができる様子を実験しました。

実験後は博物館前の小渋川にて、河原の岩石や周辺の地形を観察しました。

その後、大鹿小学校と博物館脇の水道ポンプ小屋のボーリングコアと掘削屑を観察しました。これらから、地下22mまで今の河原と同じ、れきと砂が堆積していることがわかりました。

最後に右馬允の下の崖まで歩き、露出しているれきを観察しました。ここで見られるれきは川に流されて来た、角が取れて丸くなった河原のれきです。昔は右馬允の辺りが河原で、小渋川は今より約40m高いところを流れていた時期があったと考えられます。長い時間の中で、川底の高さは上下しています。

今後も半日ほどで見て回る観察会を企画していきます。どうぞお気軽にご参加ください。（榊原）



小渋川の河原にて大河原の地形観察

### 次回：大鹿の大地をちょっと見る観察会「大河原の中央構造線をまたいで歩く①」

3月26日（土）午後1時～4時（午後1時 中央構造線博物館集合）参加無料・申込不要

主に東側の外帯を歩きます。山歩きのできる足回りでお越しください。

博物館 → 右馬允下の蛇紋岩 → 秋葉古道 → 城の腰の露頭と城跡

現在、城の腰露頭がとてもきれいに見えます。この機会にぜひご覧ください！

### 退任のごあいさつ 学芸員補 榊原 貴志

3月をもちまして、私、榊原は大鹿村地域おこし協力隊を退任し、博物館業務から身を引くこととなりました。中央構造線を始め、地形・地質の分野は初めて触れるものばかりで、知れば知るほど興味が湧きました。2年という短い間でしたが、岩石や地形について、以前とは違った見方ができるようになりました。

普段は来館者の受付、資料整理、博物館たよりの作成、ホームページの更新、入館料等の会計、その他事務仕事などを担当しました。来館された方に対し、最初は入館券の販売程度でしたが、少しずつ展示の解説をするようになり、今では初対面のお客さんと話をするのも楽しいと思えるようになりました。

また、ちょうど南アルプスのジオパークやユネスコエコパークの活動が盛んな時期に着任したため、それらのイベント等にも関わることができました。ジオパークについては2014年の南アルプス、2015年の霧島と、2年連続で全国大会に参加させていただきました。南アルプスの大会ではツアーの企画やガイドを務め、時間配分はどうするか、わかりやすく伝えるにはどうしたら良いか等、非常に勉強になりました。

最後になりますが、お世話になった皆様に厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。